海外への夢、諦めない

コロナ下国際交流奮闘

新型コロナウイルスの影響が長期化し、留学などの国際交流への打撃は不可避な情勢だ。一方、制限緩和を見据えた模索の動きも出始めている。

留学を取り巻く環境は依然として厳しい。本学国際交流課によると、今年度の本学からの交換留学派遣は9月末出発分までは中止。10月以降の出発分については外務省が設定する危険レベルなどの条件を満たすことで派遣を認めることになったものの、同課が受け持つプログラムで実際に渡航が認められた例はこれまでないという。春休みにある短期留学プログラムについては実施の有無を含め検討中だ。本学ホームページによると、海外大学から本学への短期交換留学プログラムも今年度の受け入れが中止となった。

留学生指導もオンライン

全ての望みが断たれたわけではない。海外出身学生向けの4年制学士課程「現代日本学プログラム」では、海外からでも受講可能なオンライン授業を活用し留学生の新規受け入れに踏み切った。来年4月の入学予定者を対象とする半年間の予備課程を9月にスタート。同時配信とオンデマンド配信を組み合わせ、日本語を学ぶ授業などをアジアから欧州、アフリカに至る世界各地の19人の学生に提供している。

開講にあたっては個別面談を実施しオンラインでの開講に理解を求めた。同課程を統括している高等教育推進機構の山田智久准教授は学費についてなど受講生からの苦情を予想していたが、「いつかは日本に行けるからオンラインで頑張る」などの前向きな反応が多く「あらゆる点で誤算だった」と振り返る。

受講生らを支えるのは日本で学ぶことへの強い意欲だ。日本人の母親を持つカナダ出身のエミリー・カーさんは「日本の四季を体感したい。漢字を習って小説を読めるようになりたい」と話す。中米コスタリカ出身のミシェル・フローレスさんは日本への渡航を諦めることも検討したが「夢だから待っている」。家族からも「あなたの夢だから」と困難な状況でも日本への渡航を後押しされたという。

予備課程では日本人学生とも交流（山田准教授提供）

最大の壁は時差

オンライン授業への学生の反応は様々だ。ミシェルさんは「つまらないと思っていたが受けてみたらとても楽しかった」と振り返る。クラスメートとはSNSやゲームでも交流している。

一方、国境を超えたオンライン同時配信授業の最大の壁が日本との時差だ。ミシェルさんの就寝時刻は毎朝4時で「人間は夜行性でないから難しい」と打ち明ける。家族と同居しながらの受講だが、食事も一人でとることが多いという。

学生間のコミュニケーションの課題を指摘する声も聞かれた。タイ出身のアティップ・コクラチャイさんは「実際に会ってみないとコミュニケーションをとっている気がせず、ゲームなどで交流しても親しくなりきれていない」と話す。

次の機会見定める北大生

交換留学の見直しを迫られた北大生らも次の一手を模索している。法学部3年の齋藤未衣花（みいか）さんは本学入学前から憧れを抱いていたドイツのミュンヘン大で3月からおよそ半年間、語学や政治学を学ぶ予定だったが渡航から2週間ほどで緊急帰国を余儀なくされた。当初は一時帰国のつもりでいたものの、ドイツに引き返すことは叶わず「前期は気持ちを切り替えられなかった」という。

「大学の後で絶対行こう」。辛い経験を経たからこそ、齋藤さんの次の挑戦への決意は固い。進学を目指している法科大学院在学中の留学も視野に入れつつ「制度がなくても自分で頑張って行けるようにしたい」と意欲を見せる。

文学部3年の荒幹彦（あら・もとひこ）さんも今年度後期に予定していた英国のマンチェスター大への交換留学が中止になった。そこで荒さんが代わりに選択したのが台湾での長期インターンシップへの挑戦だ。ワーキングホリデーのビザを活用し、SNS関連の企業で働きながら本学のオンライン授業も履修するという。来年度出発の交換留学にも応募し「あらゆる展開を想定して計画的にやっていきたい」と意気込んだ。

日本語を実際に使う機会が限られることにも課題を感じているという。

11月以降、制限の緩和などで学生らの日本入国のメドが徐々に立ち始めた。日本での経験やその先のキャリアを見据え、受講生らの前進は続く。

横田副学長 北大のコロナ対応紹介
ソウル大とのシンポで

本学の横田篤理事・副学長（国際など担当）が5日、韓国のソウル大と本学とのオンラインシンポジウムで講演し、新型コロナウイルスに関して本学の感染状況や研究活動、学生団体の取り組みなどを紹介した。

横田氏は10月に入り本学でも感染者が増えていると指摘。授業は他国と同様、対面とオンラインの「ハイブリッド」で行っていると紹介した。

新型コロナに対する研究活動では、西浦博教授（現京都大教授）が感染拡大を防ぐため社会的接触の8割減を提唱したことを取り上げ、本学の新型コロナ感染症対策本部も西浦氏の意見を参考に、職場での職員数を「一定数にしている」と話した。

札幌農学同窓会が5月から、食やお金、アルバイトの支援をしていることも紹介した。また、学生活動として苦境の飲食店の支援をしている学生団体を取り上げ「コロナ禍でも前向きに取り組む熱意や魂に感銘を受けた」と話した。

シンポジウムではソウル大やベルギーのゲント大、豪州のメルボルン大の国際担当の理事なども各大学の取り組みを紹介した。

オンラインで話す横田副学長（5日、北大事務局）

新型コロナ 感染防止徹底を
構成員10人感染 11月前半

本学は11月前半、学生や職員ら10人の新型コロナウイルス感染を発表した。

公表日と内訳は5日に職員1人、6日に職員1人と北大病院医師1人、10日に学生と職員各1人、13日に学生5人。北大病院は消毒して通常診療を続けている。

9月は感染者の発表はなく、10月には10人の構成員の感染が公表された。本学構成員の感染者は累計で32人となった。感染者が増加しており、本学は感染防止対策の徹底を呼びかけている。

「北大牛乳」アイス きょう発売 北大マルシェ

本学構内のカフェ「北大マルシェ」は16日、「北大牛乳」を使用したカップアイスを発売する。味は北大牛乳など5種類で、どれも北大由来の素材にこだわった。

「HOKUDAI Clark's Milk アイスクリーム」は北大牛乳、バニラ、ハスカップ、ブルーベリー、ラズベリーの5種類。ハスカップとブルーベリーは本学余市果樹園産のものを使用し、ラズベリーは本学が品種改良したものを使っている。まずはマルシェ店頭のみで販売し、今後は販路の拡大も視野に入れている。

北大マルシェの宮脇崇文店長によると、添加物を使用しておらず「素材の味が生きている」という。米粉で代用するなど工夫した。また北大牛乳味は「牛乳を飲んでいるような感覚」と話す。価格は税抜324円。

5種類の味を揃えた

11月号
＜編集・発行＞
北海道大学新聞編集部
<URL>
hokudaishinbun.com
（お問い合わせ・情報提供もこちらから）
次の発行予定は12月

CONTENTS

・北大に感染症国際研究所 …2面
・北大生協、経常赤字最大予想 …2面
・北大の牛は時代遅れ？ …3面
・どうする？キャリア【就職特集】 …4面

北大の「今」を発信中！
ウェブサイト（THE MAINSTREET）
Twitter（@HokudaiShinBun）
THE MAINSTREET
Powered by 北海道大学新聞編集部

北大に感染症国際研究所

センター改組、国際展開前面に

本学は2021年4月に「人獣共通感染症国際共同研究所」を設置する方針を決めた。本学北キャンパスにある人獣共通感染症リサーチセンターを改組して設置するが「国際」と銘打ち、国際展開をさらに進めていく意気込みを示す。感染症はどこから広がるかわからないため、海外での研究が重要だ。新研究所は、新興感染症が流行する前に「先回り対策」をしていくことを目指す。

決定機動的に

本学では低温科学研究所などに続き、5カ所目の研究所。研究所は意思決定をする「教授会」を単独で組織でき、感染症対策に重要な、機動的で責任が明確な決定ができるようになる。

同センターの鈴木定彦センター長は、新型コロナウイルスを例に挙げ「(感染症では)迅速に対応しないといけないことがたくさん出てくる」と話した。これまでは約半数が他部局所属の教員で構成された「協議員会」が同センターにあったが、日程調整が難しく重要事項の審議に時間がかかるなどの課題があった。

「国際疫学部門」など現在7つある部門を獣医学研究院の教員が兼務するものを含め約2倍の16に拡充。「国際展開推進部門」を設け、本学のアフリカのザンビア拠点に加えて、連携する国内大学の拠点がある中国やタイ、ベトナムでの共同研究も促進する。

鈴木センター長によると、同センターでは現在、32カ国と共同研究をしている。研究所名に「国際」と銘打つことで「国際展開を前面に押し出し、さらに進める意気込みを入れた」と鈴木センター長は話す。現在22人いる専任の教員も今後は増やしていきたい考えだ。

「人獣共通感染症国際共同研究所」

- 「教授会」組織で機動的で責任ある意思決定
- 新設や改組で「部門」を倍の16に
  →「国際展開推進部門」「病原体構造解析部門」など
- 高機能な顕微鏡導入で新型コロナ研究も

「先回り対策」

新型コロナウイルスを含め感染症は世界で広がっていく特徴がある。新研究所はセンターに引き続き、感染が流行する前に「先回り対策」をすることを目指す。具体的には①動物がウイルスなどを持っているのを特定し、人へのルートを遮断する②ウイルスなどの病原体をコウモリや家畜、野生動物などから集めて予めワクチンなどの予防策や診断法、治療法を開発する――というアプローチがある。

感染症発生の「ホットゾーン」は東南アジアやアフリカ、中南米など広範囲に存在する。そうしたゾーン内など海外各地で研究することで新興感染症の芽を摘む狙いだ。鈴木センター長は「(これまで)アフリカやアジアなどで新しいウイルスを集めてきたが、研究所化でさらに拍車をかけたい」。

コロナ研究も

新型コロナ研究では治療薬の開発などに取り組んでいる。今年度中にはウイルスなどを超微細に構造解析できる「クライオ電子顕微鏡」を生きたウイルスを扱える施設内に導入。これに対応する「病原体構造解析部門」を新たに設け、新型コロナ研究も進めていく。

本学は感染症研究に力を入れており、東京大、大阪大、長崎大と「感染症研究教育拠点連合」を形成。世界保健機関(WHO)からも同センターは「人獣共通感染症対策研究協力センター」に指定されている。

北大生協、見通し厳しく

今期、経常赤字3億円超　過去最大

北大生協は、2021年2月期(20年3月～21年2月)の経常損益(経常剰余金)が3億1700万円の赤字(前期は3386万円の赤字)になるとの見通しを同生協の機関誌で明らかにした。経常赤字額として過去最大という。現在も短縮営業などでコスト削減を続けており、状況が好転しなければ21年度は一部店舗の閉店などのリストラも検討する。

見通しは8月終了時点で算出した。経常赤字は、新型コロナウイルスの影響を反映していない当初予測(2100万円)から大幅に膨らむ予想。前期比でも経常赤字額は約9倍の規模になる見通しだ。

売上高にあたる供給高は前期比約4割減の26億4600万円に落ち込むと見込む。新型コロナの影響で学内人口が減り、特に食堂や購買での食関係の利用がふるわないほか、旅行部門が低迷している。9月に関しては、自動車免許や情報機器商品の利用が増え、購買部門は供給(売上)目標を達成したという。

客数減少を受け、北大生協では短縮営業を続けるなどしてコスト削減に取り組んでいる。ただ、損益が好転しない場合、21年度には不採算事業の縮小や撤退、不採算店舗の閉店といったリストラも検討していく。同生協の小助川誠専務理事は「下期の動向を分析して、理事会で議論のうえ決めることになる」と説明する。

短縮営業などを伝える看板(6日、中央食堂)

防災に向け開発局と連携

災害研センター

本学広域複合災害研究センターは10月2日、北海道開発局と連携協力協定を結んだ。台風の後に地震が発生するというような「広域複合災害」などの分野で、研究や技術開発のほか、人材育成を推進する。

道内では2016年、3つの台風が上陸し、18年には胆振東部地震が発生。今後も大規模な災害が懸念され、防災や減災、国土強靭化が求められている。こうした中、今回の協定では①同センターの研究集会や講義、研究プロジェクトに開発局職員が参加②教育・研究上の情報交換③北海道開発の施策・事業や災害対応に同センターが助言――といった形で両者が連携を深める。

本学で10月2日にあった締結式で開発局の倉内公嘉(きみよし)局長は「災害発生時、相互に情報共有して、より迅速に被害に対応することを目指す」。山田孝センター長は「(センターは)学術機関で災害対応など実務の面で弱いところがあった。それに長けている開発局との連携は有難い」と話した。

同センターは19年4月に設置された全学組織で、文理の教員ら約30人で構成。これまで全国の広域複合災害の特徴を整理するなどしてきており、23年度までに減災ガイドラインを社会に提案することを目指している。

また、北大生協では不測の事態に備え、国などの新型コロナ支援制度を活用して資金調達した。

さらに、生協への新規加入や教職員の組合員に対して増資を呼び掛けている。

工事で食堂休業

北大生協の中央食堂は建物の耐震改修工事のため12月初旬から一時休業する。工事は2021年3月中旬までで、休業は3月末までを予定している。

協定を結んだ開発局の倉内局長㊨と山田センター長(10月2日、北大事務局)

写真は金葉祭実行委提供

ライトアップ、今年は動画で　イチョウ並木

金葉祭実行委員会は10月25日、本学のイチョウ並木のライトアップを新型コロナウイルス対策のため非公開で実施。その模様を8日、同実行委がユーチューブ上で公開した。昨年は脅迫メールで祭が中止になっていた。

花粉濃度、400㍍間隔でわかる

春のシラカバ予測システム　稲津教授開発

毎年4～6月に道内で花粉症を引き起こすシラカバ花粉について、札幌市内の空中濃度を400㍍間隔で予測するシステムを本学理学研究院の稲津將(まさる)教授＝気象学＝らの研究チームが開発した。シラカバ樹木の分布に天気予報を掛け合わせて予測する仕組みで、実用化すれば花粉症の患者にとって役立つ。最短で2022年にも実用化できる可能性がある。

Hokudai Quiz ???

問題

今年も黄葉がきれいだったイチョウ並木。いつ北大に誕生したでしょう？

→答えは別のページに

北大の牛は時代遅れ？だがそれがいい

#北大discover

本学は札幌農学校を前身に持ち、今も札幌中心部でありながら緑が広大に広がる。そのうち20ヘクタール弱の土地でのびのびと暮らしているのが牛だ。米国から初めてやってきた1889年から血を受け継いでおり、今では「時代遅れ」とも言われる放牧主体の飼い方を継承して守っている。「#北大discover」4回目では今に繋がる北大の酪農を追った。

血統受け継ぐ

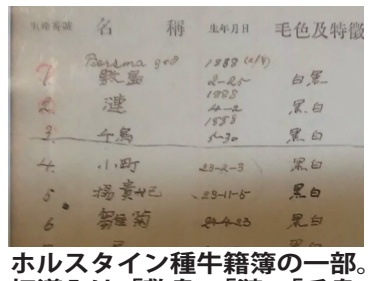
ポプラ並木などに近く本学の西側に広がる第1農場。ここに約50頭の牛が暮らしている。同農場で研究をしている三谷朋弘助教によると、今いる牛は約130年前に初導入された牛を祖先に持つという。

なぜわかるか？　ヒントは牛の名前にある。

取材時にこちらのカメラに目もくれず放牧草を夢中で食べていた牛が数頭いた。そのうち1頭の名前を聞くと、「ホクダイ　ヤルジヤン　チサト　ユタカ」。

注目するのは最後。「ユタカ」と名付けられているが、実は本学（当時札幌農学校）に初導入されたうちの1頭の「漣（さざなみ）」にルーツがあることを示す。ちなみに、ホクダイに続く名前の2番目は人工授精の父親、3番目は人工授精をした獣医学部の学生を表す。

1889年、米国から札幌農学校に3頭のメスと2頭のオスがやってきた。今の日本の酪農で主流の「ホルスタイン」という種類の牛だが、本学の近藤誠司名誉教授によると、米国ホルスタイン協会で血統登録されたものとしては国内で初めての導入だったという。


ホルスタイン種牛籍簿の一部。初導入は「敷島」「漣」「千鳥」（北海道大学総合博物館所蔵）

放牧草を食べる「ホクダイ　ヤルジヤン　チサト　ユタカ」

それ以降、1頭ずつ番号も割り振られているが現在の北大農場で最も若いのは1318番。メスのみではあるものの、約130年の歴史で1300頭以上を生産してきたことになる。

放牧は古い？

本学の酪農の大きな特徴は放牧が主体ということだ。青々とした牧草のなか牛が暮らしている――。酪農ではこんなイメージが持たれがちだが、今ではそうした飼い方はマイナーだ。

牛舎で年中飼うとエサの栄養の調整がしやすく高栄養価の穀物などを与えられ、1頭当たりの乳量を増やしやすい。一方、放牧では栄養管理が大変で、乳量は比較的少なくなってしまう。

このため、放牧は「今となっては一般的ではない」（三谷助教）という。農林水産省によると、乳牛の放牧頭数は全国で約2割（2016年）にすぎない。

しかし牛舎で年中飼い、穀物を多給する方法には「牛が長生きしないなどの歪みがある」と三谷助教はいう。また与えるエサは輸入に頼るため貿易の問題があるほか、エサの自給率も下がる。

もっとも牛舎で高栄養価のエサを与えて飼う方法が流行ったのは本学でも例外ではなかった。1970年ごろ、本学の牛も放牧草を食べる割合が下がっていた。

そこに一石を投じたのが近藤名誉教授だ。83年、一時期他大の教員をしていた近藤名誉教授が本学に着任。

「これだけ牛舎周辺に草地があれば放牧主体でできるのでは」と別の教官から聞き、今に繋がる放牧主体の生産を再開。「乳量が少ないと当時は馬鹿にされた」と近藤名誉教授は振り返る。

だが、「今は正解と思っている」（近藤名誉教授）。学問の発展などで放牧主体でも乳量が増えてきたからだ。

牛1頭からは全国平均で年間約8600キログラムの牛乳が搾られる。一方の本学の牛は今では8500キログラムほどと肉薄している。

放牧は難しく、牛が放牧草を食べすぎるとなくなる一方、伸びすぎると栄養価が落ちる。天候などにより環境も変わり「正解はない。毎年、自然相手に悩みながらやっている」と三谷助教は明かす。そのなかで、草や土、牛の知識や知恵が集積されたことで「昔より放牧のレベルが上がっている」と2人は口をそろえる。

「時代遅れ」（三谷助教）な生産方法が受け入れられる兆しはある。「見学に来た酪農家が『いいね』と言ってくれる」と三谷助教は手応えを感じている。放牧草は牛のエサではコストが安く、注目が高まっている。

本学の牛の排泄物は肥料として全て草地、畑地に還元されている。「北大農場の大テーマは持続的な酪農生産。その一つの手段が放牧だ」と三谷助教。国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）も追い風に、本学の牛の飼い方が「受け入れられる時代がくるのかな」と三谷助教は期待する。

最も若い1318番の子牛

価値伝えたい

本学の牛から搾られた牛乳はどこへ行くのか。もとは1日当たり400～500キログラム搾られる牛乳の全てを乳業メーカーに売っていた。最近では130年以上続く本学の酪農の価値を伝えようと、一部を独自に販売し「北大牛乳」としてブランド化を図っている。

「初めて感じた味。こんなに美味しいものが北大にあるのか」。本学構内で北大牛乳を扱うカフェ「北大マルシェ」の宮脇崇文店長は、2017年の夏、北大牛乳を初めて口にした。

宮脇店長は16年に本学教育学部を卒業、保険会社に勤めた。しかし、仕事に面白みを感じられずにいたところ、北大牛乳の構想を聞きつけた。三谷助教らが旗を振っていた。

「せっかくなら大学のために働きたい」。こう決意して携わり、店長として北大マルシェを17年11月、グランドオープン。瓶入り牛乳を提供するほか、より多くの人に北大牛乳を知ってもらいたいと、クッキーなどの開発にも力を注いできた。

北大牛乳は一般の牛乳と異なり、放牧をする夏と、牛舎に入りトウモロコシを発酵させたエサなどを食べる冬とで味が変わる特徴を持つ。夏は牧草を感じる香りでさわやかな味に、冬は甘味が強くコクのある味わいになる。ちなみに宮脇店長は夏派だという。

北大マルシェは今年11月で3周年。「北大牛乳を扱わせてください」と他社からの引き合いも増えているという。宮脇店長は「（価値を）ちょっとずつ伝えられてきているかな」と感じる。

今月中旬には開店当初から構想を温めてきたカップ入りのアイスを発売。取り揃える商品の拡充には三谷助教も期待を寄せている。

乳量こそ少ないけれど循環型農業などといった価値がある。それを消費者などに伝えていくために北大牛乳のブランド化は始まった。

三谷助教は言う。「季節で味が変わる、こんな牛乳があっても良いんじゃない」。

北大マルシェが提供する「北大牛乳」

ニュースDIGEST

9/24 食堂に来訪者価格導入

北大生協が11月2日から、観光客などを対象とする「来訪者価格」を全ての食堂で導入することが同生協への取材でわかった。学生や教職員などの北大構成員以外には1割増の価格で提供する。

9/29 唾液PCR精度約9割

新型コロナウイルスについて、北海道大学病院は9月29日、唾液を採取して行うPCR検査の精度が従来の「鼻咽頭ぬぐい液」による検査と同等で、約90％だったと発表した。

同病院検査・輸血部部長の豊嶋崇徳教授らの研究グループが6月中旬から、無症状者1924人の唾液と鼻咽頭ぬぐい液の両方の検体を検査して比較した。

10/1 正門横に新カフェ開業

本学正門横に10月1日、「カフェ　de　ごはん」が開店した。同店は「北大の職員や学生が日常使いできる店」を目指し、学生や教職員には1割引で提供する。

メニューは揚げ物、海鮮丼、チーズの盛り合わせなど幅広く、アルコール飲料も提供する。一番の目玉は、北大農場の牛から搾った牛乳を使ったソフトクリーム。価格は400円（税込）。

10/1 宝金新総長「全力挙げる」

本学の宝金清博総長（10月1日就任）は就任直前の北大新聞のインタビューで、総長解任のあった本学の状況は「平時とは違う」との認識を示した上で「全力を挙げて取り組む。平時の覚悟の1、2段高いレベルでやっていく」と決意を語った。すぐに取り掛かる課題としては新型コロナウイルスへの対応のほか、前執行部からの引継ぎ、不動産運用などの経営の取り組みを挙げた。

喫緊の課題の一つ、新型コロナでは「教員や学生の困っている状況を把握し、大学として必要な教育がきちんとできる状態にしたい」と話した。コロナ下の授業について「今後もずっとオンラインでも大丈夫なことはあり、全部を対面に戻さなくても」との認識を示した一方、「可能なところから対面の教育にどこかで相当戻さないといけないと思う」とも述べた。実習など対面でする必要のあるものがあるほか、オンラインで可能かどうか以前に「（オンラインでは）学生さんが大学に来た感覚とかやりがいがない」ためだ。

10/14 博物館コロナ下初企画展

北海道大学総合博物館で10月、企画展「DISTANCE　#学びと距離の物語」があった。北大で人や時間といった「距離」を越えて受け継がれてきた標本などの資料を展示した。同館での企画展は新型コロナウイルスの感染拡大後初めてで、2月以来。

Hokudai Quiz ？？？

1936年（推定）です。

詳しくは「#北大discover」（連載）第1回をご覧ください。

答え　昔はイチョウではなく○○並木だった…？

コロナ下就活実態は？
マイナビに聞く

新型コロナウイルス流行の影響で例年に増して就職活動に学生の不安が募っている。2021年卒業生（21卒）の就活は大規模な合同説明会が相次いで中止されたり、オンラインが一気に導入されたりと異例尽くしだった。コロナ下の就活の実態とは？　就活中、これから就活の北大生はどう動くべき？　マイナビの曳田英里奈さん（就職情報事業本部北海道キャリアサポート課）や同社北海道支社の豊嶋恭平さん（北海道営業統括部長）らに聞いた。

内定率は微減に

就活でよく用いられる指標の内定率。マイナビの調査によると21卒の内定率は8月末で77・6％。82・6％だった昨年からは微減で、10月はじめには8割を超えた。豊嶋さんは、就活へのコロナの悪影響は現在、「ニュースから感じるほどは大きくない」との見方を示す。21卒で新卒採用を中止したのは航空会社や道内では石屋製菓など一部にとどまり、マイナビの調査には85％以上の企業が採用を継続したと回答した。

21卒の採用活動は序盤、新型コロナ感染拡大により停滞。5月の道内の内定率は前年同月比約15ポイント減の48％に落ち込んだ。当初からオンラインで採用活動を行ったのは大企業と一部の中小企業のみだったのが影響したとみられる。3、4月はマイナビに登録する道内企業の約6割が対複数人の単独説明会を見送ったという。その後は対面の採用活動が徐々に再開しオンライン化も進んで、内定率が回復した。

一方で、マイナビに登録する道内企業約900社のうち150社以上が10月下旬時点で新卒募集を続けており、長期戦の様相を呈している。例年より長く採用を継続する企業もあるといい、豊嶋さんは、例年採用枠が早々に埋まるような優良企業の一部もまだ採用を続けていると紹介した。

マイナビの調査によれば、10月1日時点で21卒の約8割が内定を得て、約7割が就活を終えている。曳田さんによると、コロナ前に企業と接触があった学生は就活を有利に進めた一方、「北海道に絞れば、まだまだ就活を継続する学生も学校によってはいる」。就活を続けている21卒に対してインターネットで調べたり、説明会に足を運んだりするなど十分に行動することを勧める。一人で抱え込まず最新情報を持つキャリアセンターなどに相談し「年内内定を目指して」と話した。

採用堅調業界も

22卒の採用については、マイナビが6月に行った調査で、全国企業の約8割が実施予定と回答。関東の企業は採用人数未定が約2割を占めた一方、道内企業の約65％は昨年並の採用数維持の方針を示した。豊嶋さんは「特に土木やITソフトウエア、北海道の小売などは採用が堅調だ」と採用市場の現状を説明する。

現在もオンラインと対面を併用している企業は一定数ある。豊嶋さんによれば、進学で離れた地元での就職を希望する学生の負担軽減を意図した場合もあるとみられる。業界別でみると、製造業では説明会や初回面談にオンラインがよく活用される一方、店舗での接客が必要なディーラーなどは、対面のみの採用活動が主流という。

道外22卒危機感

曳田さんは「首都圏の22卒の危機感は高い」と話す。マイナビの調査では、全国の学生のうち6月から9月の間にインターンシップへ応募したとの回答が約9割、参加したとの回答も8割弱だった。曳田さんは背景として、オンライン型インターンシップの増加で参加しやすくなったり、例年の夏は部活動で忙しい層の学生が参加したりした可能性を指摘。他方で道内では、学内ガイダンスの減少などで情報収集できず積極的に動けていない学生もいて、「二極化が進んでいる」との見方を示した。

曳田さんは、22卒には「インターンシップが一番お勧め」と語る。「企業と接触を持っているのと持ってないのでは全然違う」と話す。インターンでは、インターネットで調べる以上の情報を得ることができ、経験が自己分析にも繋がるという。

23卒以降には、採用数の先行きが不透明なことから早めの準備を呼びかける一方、大学生活についても助言。学生時代に頑張ったことは採用面接で必ず問われる。しかし、対面授業がないと授業だけの大学生活になり、何かに打ち込む経験をしにくい。曳田さんはその上で「何をやり切りたいか考えて過ごして」とアドバイスした。

説明会中止を知らせる看板（3月、クラーク会館）

就職特集

新型コロナの影響で異例の開幕となった今年の就活。
マイナビとJR北海道に就活の今を聞いた。

挑戦する力求む
JR北海道　幸元洋征さん

JR北海道は道民の足を守る主要なインフラ企業だ。そこでは安全意識はもちろん、様々なことに挑戦する力も求められるという。同社総務部採用グループの幸元洋征さんに求められる学生像などを聞いた。

――採用したい学生像を教えてください。

北海道に貢献したい、何か関わりを持ちたいという、強い思いを持った方を採用したいと思っています。鉄道で一番大切なことは安全ですので、お客様と社員の命をしっかり守っていくという意志を持っている方、規律やルールなど守るべきものはしっかり守っていくという強い意思を持っている方を採用したいです。

それから、やはり当社も厳しい状況ですが、北海道の環境もどんどん変わっています。鉄道は変わらないというイメージがあるかもしれませんが、そういった環境の変化に対応していける能力も、ぜひ持っていただければと思います。

――入社されるのは道内の方が多いのでしょうか。

いいえ、（道外の人は）たくさんいらっしゃいます。当社は大学生から高校生まで幅広く採用していますが、ここ数年は半分くらいが道外出身の方です。

――入社前に備えておくべきスキルはありますか。

当社の場合は入社後、大学生の方も、高校生の方も皆さん鉄道の仕事にまずは従事していただきます。ですが、鉄道の仕事に従事するためのスキルは入社してから、ゼロから教育を行い、色々な経験を積んでいただくという仕組みを整えていますので、それに対してはまったく心配はありません。

ですが当社は、鉄道はもちろん、色々な事業（まちづくりなど）を営んでいますので、入社してから様々な仕事に携わる可能性があります。ですので、そういう新しい仕事に対して挑戦していく能力や、興味を高めていただきたいと思っています。特に大学では、そのような挑戦する機会がたくさんあると思います。

――今の北大生に対するイメージは。

私も北大出身ですが、本当にバラエティー豊かな人材がいるというイメージがあります。それから何よりも、それぞれで志を持って入学され、色々なことにチャレンジしている方が多いなと、魅力的に感じています。

――今の学生に足りないと感じる点はありますか。

早くから進路を狭めている方が多いなと思います。志望される企業や、業界というのを強く持っているのは素晴らしいことだとは思うのですが、最初視野を広く持った方が、ご自身の納得できる選択をできるのではないかと考えています。

――JR北海道で得られる経験やスキルには何がありますか。

当社は北海道の会社ですので、色々な仕事を通じて北海道に貢献できるというのがメリットだと思います。それから、チームワークでのやりがいがいですね。また、チームマネジメントや、コミュニケーションを求められますし、それが高められるのもあると思います。あとは、様々な事業を行っていますので、一つの会社にいながら全く違う仕事にチャレンジできるというのもあります。

――これから就活に臨む北大生にメッセージをお願いします。

私も北大の中で色々なことを経験しましたし、失敗もしました。様々なことへのチャレンジなどを通じて成長できる機会が、北海道大学には本当に豊かにあると思います。

就職活動も一つのチャレンジする機会です。本当に大変だと思いますが、たくさんの会社を見たり聞いたりできる機会は一生に一度しかありません。なので前向きに考えて、挑戦していただければと思います。

幸元洋征さん（写真撮影時のみマスクを外し対応）

話題の人に会える!?
北大の「今」がわかる！
文理問わず大歓迎!!
THE MAINSTREET　北海道大学新聞編集部
新メンバー募集中！
LINE公式アカウント開設！→
新入生向け情報など発信中！
ぜひ、北大新聞